

五條市ビジョン
令和5年度
事業評価資料

令和6年8月
五條市ビジョン推進懇話会

五條市ビジョン総合戦略の評価

基本目標 第一條子どもを育てたいまちをつくる

①子ども・子育て支援

目標指標	現状値	目標値
子ども女性比	0.155 (平成30年)	0.160 * (令和6年)

*一年あたり約0.009 増加

本市の子ども女性比は、奈良県や国の値を下回っています。

子ども・子育て支援プロジェクトでは、子ども女性比を目標指標と設定し、一年あたり0.009の増加を目標としていますが、本市においては、令和2年は0.145、令和3年は0.134、令和4年は0.125と一年あたり平均0.01減少し、奈良県や国と比較しても減少率は大きい結果となりましたが、令和5年は0.118となり、減少傾向はややゆるやかになりました。



出典：総務省「住民基本台帳年齢階級別人口」より算出

(1) 子ども・子育て支援プロジェクト

【重要業績評価指標の実績】

重要業績評価指標 (KPI)	現 状 値 (H30)	実 績 値 (R2)	実 績 値 (R3)	実 績 値 (R4)	実 績 値 (R5)	目 標 値 (R6)
①幼児教育・保育の 環境を整える：公立 認定こども園園児数	— (未 整 備)	— (整 備 中)	299 人 (R4.4.1 時点)	281 人 (R5.4.1 時点)	249 人 (R6.4.1 時点)	295 人
②教育の環境を整える：教育情報端末機 器の整備率	3.8%	96.0%	100% (R4.4.1 時点)	100% (R5.4.1 時点)	100% (R6.4.1 時点)	100%

【関連事業の評価】

①幼児教育・保育の環境を整える

事業	内容・実績	評価・課題
認定こども園整備事業 ：子ども未来課	・平成28年に策定された「五條市立認定こども園整備基本計画」に基づき、幼稚園（2園）と保育所（7園）を統合し、新たに3つの認定こども園（きぼう・みらい・ゆめ）を開園した。	整備事業が令和4年度に完了。 計画通り目的を達成。 今後は地域のニーズに応じた魅力ある就学前教育・保育の実現を進めることが必要。
子育て支援事業（こども園管理運営） ：子ども未来課 ※ヒアリングにおいて 評価実施	・私立こども園への給食費補助 ・公立こども園へ登降園管理システム導入 ・所得制限なく第2子保育料無償（市独自） ・すべての園で延長保育を実施 ・一時預かり保育の実施	市独自での支援策を実施。 保育料・給食費の無償化の検討が課題。

②教育の環境を整える

事業	内容・実績	評価・課題
放課後児童クラブ（学童保育所）施設整備事業 ：子ども未来課 ※ヒアリングにおいて 評価実施	・令和5年度に北宇智小学校が五條東小学校に統合されることを受け、五條東小学校の敷地内に宇智学童と北宇智学童を統合させた学童保育所を整備することを目的に事業を進めてきたが、五條東小学校施設の確認調査が必要となったため、整備事業に着手することができなかった。宇智学童と北宇智学童を令和5年度以降も継続して運営する。	計画どおりに進めることはできていないが、当分の間は現状のままで実施。 入所児童者数を勘案し、今後の事業実施について見直しが必要。
子育て支援事業（学童保育所） ：子ども未来課 ※ヒアリングにおいて 評価実施	・公立私立学童保育所で学習指導員を配置。宿題など学習支援やAIドリル活用。	学習指導員配置は市の特色ある取組。 学力向上化が課題。ソフト施策の充実が重要。

ICT 教育推進事業 ：教育総務課・学校教育課	・教育情報端末の整備については、令和3年度に整備率 100%となり目標を達成している。令和4年度は、さらなる環境整備となるインターネット回線の改善工事を行い大容量通信への対応も可能となった。 ・各校に ICT 支援員を月4回派遣し、整備したタブレット端末を授業や家庭学習でさらに活用が進むようにしている。 ・新たに AI ドリルを小・中学校に導入し、児童生徒が自らすすんで学習に向かう姿勢を養い、学習習慣の定着を図ることができるよう、取組を充実させてきた。	計画通り目的を達成。 今後はタブレット端末等機器更新が必要となる。
小中学校の規模・配置適正化事業 ：子ども未来課	・学校適正化基本計画に基づく小中学校の統廃合の実施。 ・令和4年度に北宇智小学校と五條東小学校の統合が完了。 ・令和5年4月から3中学校（五條・五條東・五條西）・4小学校（五條・五條南・五條東・牧野）を3つの学園として小中一貫教育をスタートした。	事業は令和4年度に完了。 計画通り目的を達成。 今後も継続して規模、配置適正化を検討していく。
西吉野農業高校魅力化推進事業 ：教育総務課・学校教育課	・プロフェーマーによる実践指導の充実のため、専門的なノウハウを持つ、地元農家・農業生産法人を中心とした「西吉野農業高校を支援する会」の協力を得ながら多くの農業実習・就労体験活動を行った。 ・農業高度化事業や就労体験活動を通じて、生徒の農業技術を向上させ、市内に残って就農したいと考える生徒を確保することができた。 ・市内で就農する西吉野農業高校の卒業生を対象とした、『卒業就農支度金及び住宅家賃補助等の制度』を卒業生が利用した。	全国募集枠による県外・県内の入学者を一定確保できたが、全体の生徒数は減少している。 事業はある程度進捗したが、目標は達成しそうにない。 学校外の連携機関との協力により更なる西吉野農業高等学校の魅力化を進める必要がある。

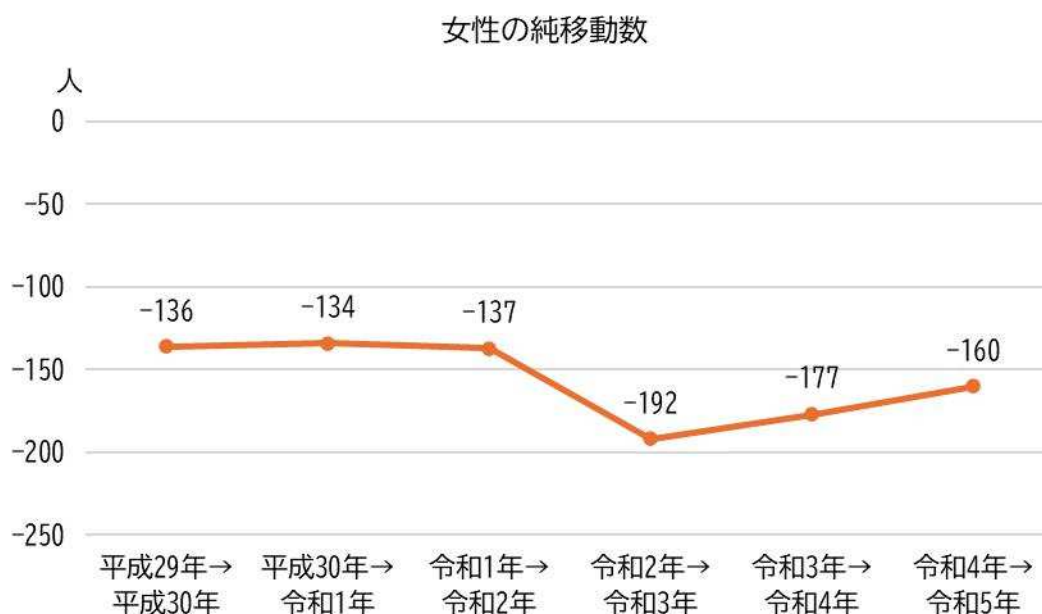
基本目標 基本目標 第二條安心して定住できるまちをつくる

②女性定住促進

目標指標	現状値	目標値
女性人口の社会増減	-136 (平成 29 年→平成 30 年)	0 人 (令和 5 年→令和 6 年)

本市では女性の純移動数はマイナスの状況が続いています。

女性定住促進プロジェクトでは、女性の純移動数を目標指標と設定しています。平成 29 年→平成 30 年において-136 人であったことから、マイナスの状況からの脱却を目指し、5 年後に「0 人」とすることを目標値と設定していますが、本プロジェクト取組開始以降毎年目標値を下回り、特に令和 2 年以降は現状値-136 人よりも大きく減少しています。目標値は達成できていませんが、-192 となった令和 2 年→令和 3 年以降、徐々にではありますが、回復傾向にあります。



出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

(2) 女性定住促進プロジェクト

【重要業績評価指標の実績】

重要業績評価指標 (KPI)	現 状 値 (H30)	実 績 値 (R2)	実 績 値 (R3)	実 績 値 (R4)	実 績 値 (R5)	目 標 値 (R6)
①女性が就業しやすい環境づくり：女性就業推進イベント参加者数	— (未 実 施)	コ ロ ナ に よ り 実 施 で き ず	コ ロ ナ に よ り 実 施 で き ず	コ ロ ナ に よ り 実 施 で き ず	51 人	300 人
②住まいの支援：空き家情報バンクを利用した女性転入者数	— (未 実 施)	0 人	5 人	5 人	0 人	6 人

※「2023 年 10 月改訂 1.4 版」では、「①奨学金返還支援利用者のうち女性の利用者数」としたが、事業見直しのため、従来の指標とすることにする」

【関連事業の評価】

①女性が就業しやすい環境づくり

事業	内容・実績	評価・課題
男女共同参画推進事業 ：人権施策課	・男性の育児休暇取得の啓発 ・男女共同参画週間に配布する啓発物品の作成に広告主を募集 ・令和5年4月から五條市パートナーシップ宣誓制度施行	情報発信と啓発を行い、男女共同参画社会実現に向けた意識の掲揚を図った。 家庭と仕事の両立支援や就業・起業支援、女性の就業環境の改善、女性が活躍できる機会の創出など複合的な取り組みが必要。
地方創生推進事業（女性の起業支援） ：産業観光課	・令和3年度に引き続きオンラインによる WEB ライター養成講座の開催。女性がインターネット上のライターとして活動し、収入につながる例も出てきている。	女性の就業・起業支援、女性の就業環境の改善、女性が活躍できる機会の創出など複合的な取り組みが必要。
企業誘致等促進事業 ：産業観光課	・企業への誘致活動推進と小規模事業者の創業支援及び工業団地施設の維持管理をサポート。 ・市内立地情報の発信とセミナー等への参加による企業誘致活動。 ・五條市起業家支援施設管理業務を委託。 ・新たに参入した企業へ対しては、奨励金等の補助。	令和4年度に南大和テクノタウン内のすべての区画に企業が参入し目標が達成された。 今後、既存企業の撤退があった場合など新規参入の企業誘致が必要になる。企業誘致等に関する情報を今後も継続して発信していく。

②住まいの支援

事業	内容・実績	評価・課題
空き家対策事業（空き家利活用推進事業） ：まちづくり推進課	・ 空き家の利活用を促進させるために、空き家相談窓口、空き家情報バンクの充実を図る。 ・ 360° カメラで撮影したバーチャル映像をホームページに公開するなど、空き家の利活用を促進する取組を進める。	計画通り目的を達成・達成見込み。 継続して事業を実施。利活用可能な空き家の掘り起こしに努める。
移住体験型住宅事業 ：企画政策課	・ 平成 28 年度から運営開始、西吉野町平雄地区リノベーション古民家の移住体験型住宅の利用は、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和 4 年度は約 4 か月間、県外から（内 2 か月間は完全閉鎖）の受入れを停止した。令和 5 年度は目標値（3 件）を超える 5 件。	ある程度進捗したが、目的は達成しそうにない。施設利用者は目標を達成できたが、実際に移住につながってはいない。 市 HP・SNS での施設紹介等を継続して実施し、更に利用促進を図り、移住定住につなげるよう取り組む必要がある。
移住定住推進事業 ：企画政策課	・ 結婚新生活支援事業補助金を交付し、結婚生活をスタートするためのコストの助成を行っている。東京圏から五條市に移住した場合移住支援金を交付。 ・ 市として奨学金の返還支援の導入を検討しているが実現していない。	計画通りとは言えず、目的の半分も達成しそうにない。認知度が低く、五條市への移住実績に結びついていない。 移住支援金だけでなく、仕事や子育て環境の良さをセットで PR していく必要がある。

基本目標 第三條地域資源を活かした産業のまちをつくる

③地域商社推進

目標指標	現状値 (H30 年度)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	目標値 (R6)
地域商社の新規事業数	— (未実施)	3 件	2 件	3 件	1 件	4 件以上*

*「観光・宿泊部門」「物販・ブランド化部門」「まちづくり部門」「エネルギー地産地消部門」
各 1 事業以上

令和 2 年度には、地域連携の核となる組織として一般財団法人大塔ふる里センターを母体に、「五條市地域商社」を設立しました。

地域商社推進プロジェクトでは、地域商社の新規事業数を 5 年後に「4 以上」とすることを目指して取組を進めています。令和 2 年度から令和 4 年度までの 3 年間は、地方創生推進交付金を活用し、地域産業ブランド推進事業に取り組んでおり、3 年目となる令和 4 年度は、令和 2 年度に策定した事業計画に基づいて、「柿の葉ビジネス事業」「新商品開発事業」「人材育成事業」の 3 つの事業を展開しました。

(3) 地域商社推進プロジェクト

【重要業績評価指標の実績】

重要業績評価指標 (KPI)	現状値 (H30)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	目標値 (R6)
①地域商社の活動支援：地域商社が連携する組織（企業、団体等）数	— (地域商社未設置)	1 組織	1 組織	1 組織	1 組織	5 組織
②行政による産業支援：ジビエール五條における販売収入額	11,882 千円	10,659 千円	5,467 千円	5,676 千円	3,903 千円	15,000 千円
：及び五條市林産物加工施設における販売収入額	— (未整備)	8,649 千円	16,622 千円	17,684 千円	14,349 千円	64,000 千円

【関連事業の評価】

①地域商社の活動支援

事業	内容・実績	評価・課題
地方創生推進事業（地域商社） ：産業観光課	・一般財団法人大塔ふるさとセンターを母体として官民連携で「地域商社」を設立。	ある程度進捗したが、目的は達成しそうにない 指定管理施設の運営、維持業

	・令和4年度は官民連携組織である地域・産業ブランド協議会会員と協力して11のツアープランを設定し、モニターツアー事業を2回実施。 ・五條市認証マークを商標登録し、ふるさと納税返礼金説明会にて配布、認証マーク活用の周知。 ・指定管理施設の一つ道の駅大塔において、小中学生向けドローン体験飛行イベントを実施。 ・令和5年度は大塔地区活性化のための試行的な取り組みとして平日イベント開催を企画。実施したイベント『原一・原二祭り』はバイカーにターゲットを絞ったイベントとし、平日開催にもかかわらず100名の参加があった。 ・指定管理運営事業：大塔郷土館・道の駅「吉野路大塔」・ロジ星のくに	務のウエイトが多く、新規事業の展開が難しい。過去実施した取り組みにおいても柿の葉っぱ事業を除き、継続性を図ることができなかった。 大塔地区の中核施設として当該施設運営は必須。 事業の継続については、指定管理のあり方の見直しが必要。一方で指定管理料がないと、地域商社を維持できなくなっているジレンマがある。地域商社の機能の仕切り直しが必要。
きすみ館大規模改修事業 ：西吉野支所	・平成29年度から休館しているきすみ館大規模改修事業の推進を図ってきたが、新型コロナウイルス感染症拡大など状況が変化する中、庁内において令和3年度以降の主要プロジェクト事業の見直しにより、きすみ館大規模改修については延期(内容再検討)となり、ランニングコスト・採算性のとれる施設計画等が必要とされ、今後の事業計画について再度あらゆる角度から検討を行うこととなった。	事業廃止 市として事業実施は厳しいと判断。
観光施設改修事業 ：産業観光課	・観光施設の改修事業、市内各所にある観光施設の改修、運営に支障をきたす箇所に必要な修繕を行っている。	ある程度進捗したが、目的は達成しそうにない。新型コロナウイルス感染の影響による利用者減少からの回復が図れず、五條市訪問者数は目標を大きく下回る結果となった。 引き続き、社会経済活動の再開状況を踏まえつつ、五條市訪問者に安心・快適に施設を利用頂けるよう、必要な修繕を行っていく。

②行政による産業支援

事業	内容・実績	評価・課題
ジビエール五條管理運営事業 ：農業政策課	・令和３年に発生した豚熱の影響で猪の捕獲頭数が回復しておらず、令和４、５年度の販売実績は減少状態。 ・猪だけでなく鹿の捕獲頭数も減少しており、食肉の取扱い量が減少する中、民間の販路やノウハウを活用した運営に切り替えることを目的に指定管理者制度を検討し、運営状況の健全化を目指している。	令和３年に発生した豚熱の影響で個体数が減少しており、計画通りとは言えず、目的の半分も達成しそうにない。 指定管理者制度の導入により、運営状況の健全化を目指す。 ジビエは地域経済を支える資源であり、五條ジビエのブランドを確立できるよう、付加価値を高める取組を推進していく。
林産物加工施設管理運営事業 ：農業政策課	・令和５年度は、製材用木材の調達が必要な製材事業を縮小し、木質バイオマス事業をメインに、木質チップの製造・販売に取り組んだ。間伐由来等未利用バイオマス材のみならず、製材所から発生する一般材を調達する等、原木調達の強化に取り組み販売量が増加。木質バイオマス利用目標の７割程度となっている。（令和５年度目標量 1,810 t、達成率 76.3%）	原木の調達量が少なく、十分な量の木質チップの製造ができなかった、計画通りとは言えず、目的の半分も達成しそうにない。 指定管理者制度の導入も含め、施設の更なる活用方法について検討し事業の見直しが必要。 今後もバイオマス材の安定調達を強力に進め、当事業の原点である木質バイオマスによるチップの生産により、循環型社会の形成に貢献できるよう取り組む。

基本目標 第四條南部地域の交流拠点となるまちをつくる

④関係人口創出

目標指標	現状値 (H30 年度)	実績値 (R1)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	目標値 (R5)
ふるさと納税「体験型返礼品」申込件数	25 件	9 件	11 件	21 件	28 件	100 件以上

関係人口創出プロジェクトでは、令和 6 年度のふるさと納税の「体験型返礼品」の申込件数が 100 件以上となることを目標としています。令和 4 年度の目標申込件数は 70 件と定めていましたが、結果は目標件数を大きく下回る 28 件にとどまりました。令和 4 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための行動制限が解除され、全国的に国内旅行が回復する傾向が見られましたが、その潮流を活かしきれなかった結果となりました。申込件数は目標値には届かなかったものの、コロナ禍前と比較しては増えており、「体験型返礼品」を選んでくださった方に対しては、本市の魅力を伝えることができたのではないかと考えています。

(4) 関係人口創出プロジェクト

【重要業績評価指標の実績】

重要業績評価指標 (KPI)	現状値 (H30)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	目標値 (R6)
①地域との関わりを創る：五新線活用イベント実施数	3 件	コロナにより実施できず	1 件	2 件	2 件	6 件
②地域と関わりを深める：ふるさと納税件数	3,683 件	7,017 件	11,987 件	12,313 件	17,754 件	6,000 件
③地域との関わりを広げる：関連自治体との連携事業数	4 件	コロナにより実施できず	コロナにより実施できず	3 件	4 件	6 件

【関連事業の評価】

①地域との関わりを創る

事業	内容・実績	評価・課題
五新線活用事業 ：産業観光課	・恒例となった「五新線ウォーク」（令和 5 年 12 月 2 日実施 200 名参加）を実施。「五新線ウォーク」は、城戸駅舎から新町通りまでを徒歩で巡るイベントで、普段は歩くことのできない幻の五新線の廃線跡を、新緑と紅葉の時期に歩くというプレミアム感が	ある程度進捗したが、目的は達成しそうにない。毎年、趣向を凝らしたイベント開催しているが、他のイベント開催もあり、目標達成は難しい。今後は市内での滞在時間を少しでも長くし、域内消費にも

	ら、市内外から多くの方々が訪れた。 ・初の試みとして城戸駅から賀名生の里歴史民俗資料館までの間を解放し、開催期間を定めず、好きな時に五條市を訪れ、幻の五新線を歩くことができる五新線スタンプラリーを実施した。	つながるよう、五條ルートと西吉野ルートを分けた運用を行うなど、様々な工夫を図ることとし、五新線を誰でも歩ける取組みを行うため、大規模な五新線ウォークは今後見直しを図っていく。
重伝建地区保存事業 ：文化財課	・五條新町重要伝統的建造物群保存地区の町並みの保存のため、国の補助を受ける修理・修景事業、防災事業を柱に調査設計、市単独修景事業等を実施する。 ・五條新町伝統的建造物群保存地区（約7ha）は、平成22年12月に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、平成23年度から地区内の修理・修景、防災等の事業を、国費65%・県費10%の補助を受けながら毎年度実施している。	計画通り目的を達成・達成見込み。次年度実施の修理・修景等の意向・件数を前年度に把握し、所有者・事業者に計画的に修理等を実施してもらった。 継続：今後も重伝建地区内の建造物の居住者・事業者と連携・協力しながら事業を実施し、歴史的な町並みの保存・活用に努める。

②地域と関わりを深める

事業	内容・実績	評価・課題
ふるさと五條市応援寄附金推進事業 ：企画政策課	・令和5年6月から、ふるさと納税ポータルサイト「さとふる」経由での寄附受付を開始。インターネットサイトによるふるさと納税額は好調を維持した。 ・令和6年度は、先行予約の開始によるシーズン外での果物への寄附受付や、インターネットサイトでの本市特産品等のPRを強化し、フルーツをはじめとした五條市のイメージ定着とファンの獲得、寄附金の増額を目指す。さらにPayPay商品券の導入や体験型返礼品を充実させ五條市に訪れていた多く仕組みづくりを行う。	計画通り目的を達成。目標としている寄付金額を超え、地域産業の活性化及びPRに繋げることができた。 財源確保及び市のPRの上で重要な事業であり、市のイメージ定着とファンの獲得、寄附金の増額を目指し、継続して取組を進める。

③地域との関わりを広げる

事業	内容・実績	評価・課題
自転車活用推進事業 ：まちづくり推進課	・公共交通機関が少ない五條市で市内の観光地巡りをするために自転車の貸出を行う。 ・市内を巡る5つのコースを設定したサイクリングマップの活用 ・整備としてはルート路面標示。中心	計画通り目的を達成・達成見込み 市内におけるサイクリング関連事業を展開することで、交流人口・関係人口の増加を目指し、地域活性化を図る。

	市街地のコースから検討。 ・サイクリングイベントはプロボで実施 ・令和5年度「五條市サイクルログ」のサイクリングイベントの実施 【日時】令和6年3月17日 【対象】18歳以上の保護者と子供 【目的】家族でサイクリングを楽しむ層をターゲットとし、中心市街地内の観光地、景勝地を巡るイベントを開催することで、本市の魅力を効果的に伝え、関係人口の増加を図る。 【参加人数】92人（うち市外52人）	
連携都市交流事業 ：企画政策課	・五條市と提携する自治体において開催されるイベント等に、相互に参加する機会を創出し、具体的な交流事業を実施。余市町・八尾市・新十津川町 ・新十津川町：R4.10.4に交流都市提携を締結。R6.2.26には「教育」分野を追加し新たに連携協定を締結。 ・河内長野市・橋本市・五條市広域連携協議会では広域連携でのデジタル化の取組の検討。	ある程度進捗したが、目的は達成しそうにない。 交流事業は有意義な施策であるが、効果が測定しづらい面がある。成果を意識した事業立てを考えていく。交流を深めることで双方にメリットがあるため、事業を継続。

基本目標 第五條すべての人が社会参加するまちをつくる

⑤地域コミュニティ活性化

目標指標	現状値 (H30 年度)	実績値 (R1)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	目標値 (R5)
地域防災組織による 防災訓練参加者数	540 人	376 人	300 人	100 人	297 人	810 人*

*一年あたり1割ずつ増加させる。

地域コミュニティ活性化プロジェクトでは、地域組織による防災訓練参加者数を毎年1割ずつ増加させることを目標とし、5年後の目標値を810人としています。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大による影響により、23ある自主防災会のうち18団体で訓練の実施が自粛されたため、5団体のみの実施となりました。その結果、目標値702人に対し、実績値は297人と、目標値を大きく下回りました。地域の方の高齢化により、自主防災会をはじめとする地域活動に参加することが難しいと感じている方が増えつつある中、感染症に対する警戒感から、コミュニティ活動への参加を回避するという方が多くいたからではないかと考えられます。

(5) 地域コミュニティ活性化プロジェクト

【重要業績評価指標の実績】

重要業績評価指標 (KPI)	現 状 値 (H30)	実 績 値 (R2)	実 績 値 (R3)	実 績 値 (R4)	実 績 値 (R5)	目 標 値 (R6)
①分野間連携による新しいコミュニティの場づくり：大塔ライフハウス施設利用者数	0 人	5 人	— (改修工事 実施)	130 人	296 人	145 人
②既存のコミュニティ活動の活性化：公民館活動（自主クラブ・サークル活動）数	253 団体	259 団体	244 団体	222 団体	213 団体	253 団体 (維持)
③防犯体制の充実：LED防犯灯整備率	15.8%	37.6%	47.5%	48.6%	53.2%	70%
④地域とともにある学校づくり：学校と地域の協働活動回数（見守り活動・読み聞かせ・学校運営協議会等を含む）	1 校平均 106 回	1 校平均 124 回	1 校平均 113 回	1 校平均 108 回	1 校平均 119 回	1 校平均 115 回

【関連事業の評価】

①分野間連携による新しいコミュニティの場づくり

事業	内容・実績	評価・課題
大塔ライフハウスプロジェクト事業（福祉・芸術・農林業の連携による大塔地区再生事業） ：大塔支所・介護福祉課	・旧大塔小中学校校舎を活用して、障害者福祉、高齢者福祉事業を進めている事業。 ・当初は運営スタッフとして「地域おこし協力隊」の制度を利用して、地域外の人材を活用していた。 ・五條市社会福祉事業団大塔ライフハウスが行ったデイサービスたていとよこいと事業については、令和5年度年間の登録者数 11 名、利用者総数 425 名、実施日数 99 日（毎週月・金曜日実施）であった。登録者数及び利用者数は、人口減少等のため昨年度より減少傾向にあるが、今後も介護等の必要な方を対象に登録者数が増加するよう努める。 ・令和5年度は大正琴サークル（1回で 10 名、12 回開催）、大塔いきいき文化祭・おおとう元気まつり（130 名）、小中学生への防災教育（20 名）、NTTドコモによるスマホ体験会（16 名）、地域ケア会議（10 名）の利用があった。	計画通り目的を達成・達成見込み。目標としている KPI の利用人数は達成。大塔ライフハウスは、デイサービス等の福祉活動や地域コミュニティの拠点として定着してきており、事業の目的である「コミュニティの再生を図る」ことに貢献している。 現在、大塔ライフハウスは、大塔町における福祉活動及び地域コミュニティの拠点並びに避難所として、地域住民にとっては、なくてはならない施設に成っている。当初と状況が変わってきていることから、今後の方向性について検討し事業継続を図る必要がある。

②既存のコミュニティ活動の活性化

事業	内容・実績	評価・課題
自治振興補助事業 ：地域政策課	・五條市自治連合会に対し、補助金を交付。令和2～4年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響でイベントができなかった。 ・令和5年度は感染症拡大が収まり、例年どおりの地域コミュニティの活性化に向けた活動を行うことができた。 ・クリーンキャンペーン（年1回） ・交通安全啓発活動（年2回） ・清掃活動（年2回） ・夏まつり盆踊り大会（年1回） ・広報誌きずな五條発行（年2回） ・先進地視察研修（年2回）	令和2～4年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けたが、令和5年度以降は目標を達成見込み。 自治連合会の活動は地域コミュニティの活性化に必要不可欠なものであり事業継続。
自主防災対策事業 ：危機管理課	・市内各地区の自主防災組織が、防災意識の向上と自主防災対策の推進を図るため、補助金の交付や以下の事業を推進。 ①地域独自の防災訓練 ②視察研修	ある程度進捗したが、目的は達成しそうにない。 自主防災組織ごとに活動に対する温度差があり、活動自体を行っていない組織がある。

	③備品等の購入 個別支援計画作成、防災訓練、消火訓練、自炊訓練などをメニューとして、令和5年度は訓練を実施できた自主防災会が7団体で達成率は30%だった。	災害時の公助には限界があるので、自助と共助の能力を高める必要があり重要であるため継続。
地域交流事業（健康サロン・元気まつり） ：大塔支所	・行政と地元自治会組織や地縁団体等が協力してイベントを実施し、地域の活力を盛り上げる。 ・元気まつりは、自治連合会と大塔いきいき文化祭実行委員会の共催で実施。令和5年度のおおとう元気まつりは、11月12日（日）に大塔ライフハウス及び大塔体育館にて、大塔いきいき文化祭と共同開催を行った。 ・大塔町のボランティア団体である大塔福祉ふれあいの会が、「ふれあいきいきサロン」を年8回、大塔町の各地区の集会所等において実施。高齢者の交流を図っている。	大塔町の人口減少及び高齢化の進行による影響や、都市部からの来場者数が伸び悩んでいるため、目標としているKPIの人数には達していないが、事業の目的である「大塔地域の活力を盛り上げる」ことにはつながっている。 大塔町のコミュニティにとって、年に一度の交流を深める大切な催しとして定着してきたため、継続していく。
文化・社会教育等推進事業 ：生涯学習課	・五條市、西吉野地区、大塔地区での文化祭の実施（委託） ・各団体への活動推進のための補助金 ・各学校での家庭教育推進のための補助金 ・文化施設合宿支援事業補助金 等 ・令和2，3年度はコロナで中止。令和4年度は大塔文化祭、1地区の開催だった。令和5年度は3地区すべての文化祭を開催した。	ある程度進捗したが、目的は達成しそうにない。 団体参加の数の減少などにより、右肩上がりのKPIは見直しを検討。クラブ・サークル数も徐々に減少している。 地域活性化には文化事業の推進を図ることが不可欠と考えられる。
スポーツ振興事業 ：生涯学習課	・市スポーツ協会等の各種団体と連携し、スポーツ振興を目的とする。各種団体への補助、スポーツ施設合宿支援のための補助。 ・令和5年度は、市スポーツ協会等の各種団体の活動はコロナ過前の水準へと徐々に戻りつつあり、各種スポーツ教室500人、ジュニア駅伝126人、市町村対抗駅伝15人、大会出場補助金対象者10人、スポーツ少年団登録者数90人、スポーツ推進委員7人だった。コロナ過の影響で活動停止のままの競技団体もあり、厳しい状況が続いている。	コロナ過によるスポーツ人口の減少の影響が残っているものの、市スポーツ協会や各種団体のスポーツ振興活動により、KPI目標値を達成した。 各種競技のスポーツ教室の実施、スポーツ少年団やスポーツ推進委員活動等、今後も引き続き、市スポーツ協会や各種団体と連携を取り、コロナ禍での運営を教訓として、創意工夫をしながらスポーツの普及・振興に努める。

③防犯体制の充実

事業	内容・実績	評価・課題
防犯灯設置補助金事業 ：地域政策課	・防犯灯の設置（新設）や修理（取替含む）、撤去等にかかる費用の一部について、市から補助金を交付。 ・防犯灯の長寿命化とライフサイクルコストの削減を図るため、自治会にその費用の一部を支援することにより、LED化などの防犯灯の整備を進めた。 ・毎年300基の未修繕防犯灯削減を目標にしている。	計画通り目的を達成・達成見込み。 防犯灯未修繕台数 4,500 基のうち 1/3 程度を LED 化できたが、まだ 2/3 が残っており、需要もあるため、補助を継続する。引き続き、防犯灯の LED 化と修繕を推進し、安心・安全なまちづくりを支援する。

④地域とともにある学校づくり

事業	内容・実績	評価・課題
学校・地域パートナーシップ事業 ：生涯学習課	・学校・家庭・地域が一体となり、よりよい教育を目指すとともに、地域の創意工夫を生かした特色ある学校づくりを支援する。 ・学校コミュニティ協議会を中心として、各校園のスクールサポートボランティアの活用や、活動内容の共有を中心に、情報交換や研修の推進。 ・登下校の見守り・ふるさと学習・読み聞かせ等の授業支援、環境整備活動などの地域連携及び教育支援活動を各校園で展開した。認定こども園での取組としては、各園で地域や保護者の方々の協力を得ながら、地域学校協働活動を実施した。 ・地域コーディネーターや学校運営協議会委員、または各校園の担当者を対象とした研修会を実施。	各校園、地域住民といった関係者の協力により、計画通り目的を達成・達成見込み。 各園においては、今年度の活動を生かしながら、地域学校協働活動を充実させていく。 引き続き各地域における教育課題の解決や、子どもたちの学びの高まりにつながるような事業を展開できるよう努める。